

新商品開発へプレゼン

津山商高生7グループ

「Fネット」分科会 地域食材生かす品々



新商品の開発に向け、プレゼンをする津山商業高校の生徒

農商工連携を推進する「Fネット」の地域資源分科会が27日、山北の市役所東庁

舎で開かれた。地域食材を生かした新商品の開発に向け、津山商業高校の生徒たちがプレゼンテーションを行った。

同校地域ビジネス科でベンチャービジネスを選択した3年生の7グループが、各種団体で構成する分科会メンバーにプレゼン。ショウガの紅茶とマカロン、そぶり肉と組み合わせたショウガ煮、塩漬けした桜のソフトクリーム、アスパラゼリー、ニジマスとヤマメの薫製、白桃やマスカットのミックスジュースな

ど、アイデア豊かな商品案を説明した。

「津山の産品を知ってほしい」「地域の活性化を図りたい」との提案理由や、特徴、材料、レシピ、ターゲットなどを順番に発表。分科会メンバーが質問を交えながらニーズや地域性、獨創性、採算性などを評価、改善点などをアドバイスした。今後、アイデアに磨きをかけ、分科会の支援を受けながら年度内の商品化を目指す。